

## 入学を祝して



# 入学を祝して

歯学部長 山田好秋

皆さん、歯学部歯学科および口腔生命福祉学科へようこそ。入学を祝してとはいうものですが、夏休みも間近にせまり、大学生活にも慣れてきた頃と思います。

まず、新潟大学歯学部の自慢話を一つ。口腔生命福祉学科は全く新しい概念のもとに作られた学科です。これまで全国どこを調べても歯学部には歯学科しか存在せず、歯学部は歯科医を養成する所と位置づけられてきました。しかし、今年4月より新潟大学歯学部と東京医科歯科大学歯学部それぞれ新しい学科が文部科学省に認められたわけですが、口腔ケア・摂食嚥下に関する高度な専門知識を有し、保健医療福祉を総合的にマネジメントできる指導者を養成する教育プログラムを立ち上げた点で新潟大学歯学部は全国の歯学部の中であってリーダー的存在と言えます。

次に、なぜ新しい学科を設置したのか、その理由を述べさせていただきます。第1に新潟大学歯学部の目標の一つに、口腔機能を健全に保ち「おいしく食べて」「楽しく話す」といった人間が人間らしく生きるための健康を守ることが挙げられて

います。この目標は歯科医の養成だけでは達成できず、介護・福祉の現場で実践的に活躍できる職種仲間に入れる必要があると判断したからです。第2に、新潟大学の中で歯学部が担う役割を考えたとき、歯科医を養成する歯学科だけでは提供する講義内容が専門的になりすぎると考えたからです。確かに、現在でも「食べる」「顔」などの全学向け科目を開設し、好評を得ていますが、専門科目で全学に寄与するには至っていません。この点、社会福祉士の養成コースは、当然他学部の学生さんにも興味を持っていただけるため、全学教育への寄与が高まると期待されます。

新入生の皆さん、この新潟大学歯学部に入學できたことを誇りとし、先輩の築いてきた実績に負けないだけの努力を惜しまないで下さい。ただし、医療にたずさわる職に就く皆さんは、患者さんの気持ちが理解できる優しさも求められます。そして教養教育の期間には五十嵐キャンパスで他学部の学生さんと交流を深め、卒後の人脈を作ることも忘れないで下さい。





## 新潟大学歯学部入学おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 宮崎 秀夫

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本年4月、新潟大学は国立大学から国立大学法人へ変わりました。また、皆さんが歯学部生として臨床実習を行う病院は、昨年10月に医学部附属病院と統合した医歯学総合病院になりました。皆さんは新しい機構での初めての入学生ということになります。さらに、歯学部口腔生命福祉学科は全国に先駆けて、新潟大学歯学部の新設されたことも皆さんご存じのことでしょう。なにごとにも変わる、新しくなるということは妙にうきうきするものです。教育・研究・臨床に携わる我々も、将来の夢が大きくふくらんでいるでしょう新入生の皆様と同じような気持ちで本年度を迎えたといえます。

新潟の地は、過密ではないけれども買い物や交通の便など何不自由なく生活できる適度な人口規模を有します。これは、豊かな自然の中で美味しい海の幸・山の幸を食しながら、のびのびと勉学に、運動やサークルに勤しめることを意味します。皆さんの年齢やおかれている状況の中で、今しかできないことはたくさんあります。歯学部のみならずいろいろな分野の仲間との交流を持ち、悔いのない6年間を過ごしてほしいと思います。

さて、大学の附属病院は臨床教育の重要な場があります。新潟大学歯学部では、入学後直ちに病院実習を行うカリキュラムを導入しています。このシステムも全国で最初に取り入れました。治療

を受ける側と治療を行う側の両面から実際の歯科医療を体験することは、歯科医師や医療関係職に就こうとする者にとって、最も重要な導入になると考えられるからです。歯科医療の現状や進歩、あるいは歯科医療の問題点を肌で感じて下さい。病気を診ることと人（患者さん）を診ることの違いや、治療行為の一つひとつにどれくらいの学問的裏付けがあるかわかりますか？ 学年が上がり、基礎歯学・臨床歯学など専門科目を学習していく中でそれらは理解できるでしょう。

また、大学附属病院は地域基幹病院、研究病院の役割も担っています。現在では、地域の歯科医院から紹介されてこられる患者さんの比率が新患総数の40%以上を占めています。歯学部と附属病院では高度なあるいは特殊な歯科医療に早くから取り組み、診断技術や治療技術の開発が盛んに行われてきました。口臭、いびき、味覚、ドライマウス、歯周組織再生、歯周病遺伝子診断、金属アレルギー、インプラント、摂食・嚥下リハビリテーション、歯の移植、心身歯科医学、顎堤形成など従来の歯学のイメージから想像もつかないような専門外来が数多く存在します。皆さんにはプライマリーケアといわれる基本的な歯科医療知識・技術を研鑽され、さらには高度専門医療人を目指すとともに、先端医療の分野にも加わってくれるよう大きな期待を抱いております。